



骨と関節をイメージした
整形外科アピールマーク

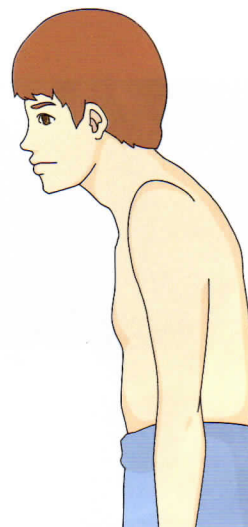
きょうちよくせいせきついえん
強直性脊椎炎



「運動器の10年」世界運動

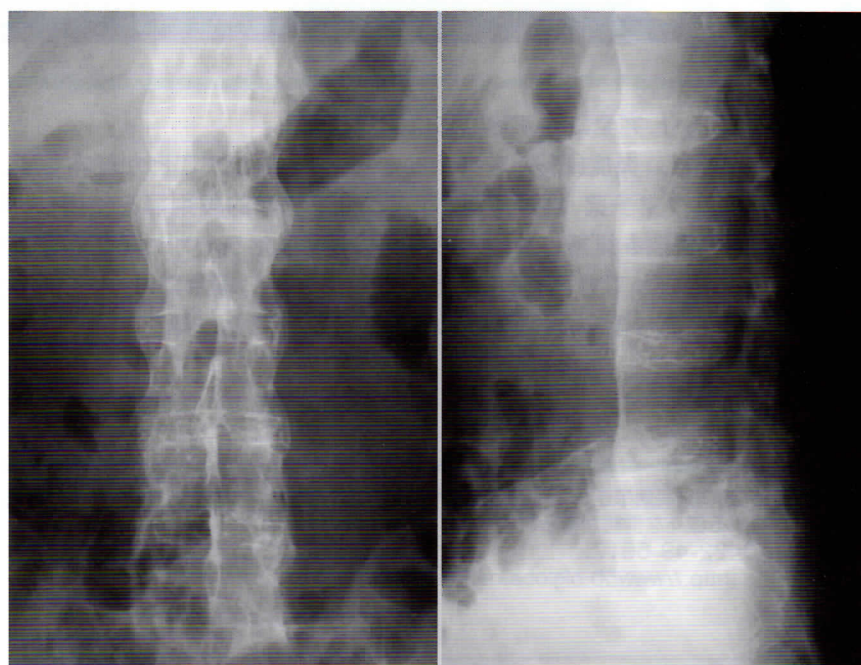
● 症状 ●

若い男性に多い我が国では稀な病気です。
初発症状は腰痛、殿部痛（坐骨神経痛）、背部痛などであり、体がこわばった感じがします。
手足の関節やアキレス腱付着部（かかと）などの痛みや腫れが出ることもあります。
進行すると脊椎の動きが悪くなり、姿勢は前かがみとなり（脊柱後弯）、上を向きにくくなるため、掲示板を見上げたり、うがいをしたり、高い所の物を取るのがむずかしくなります。



● 原因・病態 ●

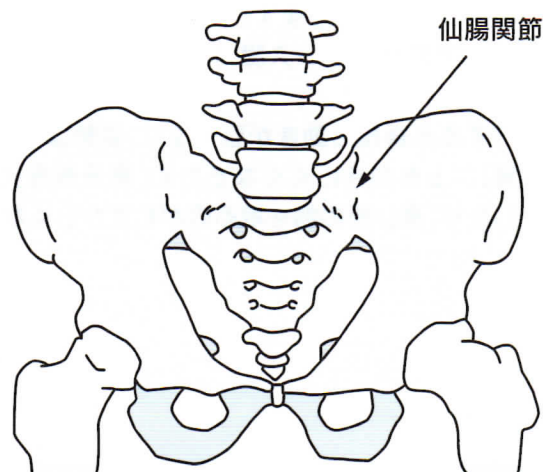
原因は不明ですが、ヒト白血球抗原であるHLA-B27の陽性率が高く、家族内発生がみられるため、なんらかの素因（なりやすさ）があると考えられています。
腱や靭帯が骨につく部位に炎症が生じ、その結果、そこに骨化が起こり、そのため脊椎や関節の動きが悪くなります。重症例では背骨が強直して（骨と骨とが癒合してしまうこと）、X線で見ると一本の竹のように写り、竹様脊柱（たけようせきちゅう、bamboo spine）とよばれるようになります。



強直性脊椎炎の患者さんの腰椎X線（レントゲン）写真。
背骨は互いに癒合して、いわゆる「竹様脊柱」となっている。

● 診断 ●

10代後半から20代の男性で、全身のこわばりや疲労感(とくに朝)、頑固に繰り返す腰痛や原因不明の手足の関節炎のある場合にはこの病気が疑われます。血液検査(赤沈やCRPなどの炎症反応、HLA-B27)やX線検査(仙腸関節炎像、脊椎椎体間の靭帯骨化像など)、さらに早期診断のためにはCT検査やMRI検査なども行って診断します。



● 治療 ●

原因が不明であり、完全に治す治療法はありません。

病気をよく理解し、炎症(痛み)を抑えながら、体を動かすことが基本です。炎症を抑えるために非ステロイド性抗炎症薬、抗リウマチ薬、副腎皮質ホルモン、生物学的製剤等を使用し、同時に種々の温熱治療、運動療法等を行い、骨関節の機能を維持しながら積極的な社会生活を心がけることが大切です。

これらの治療を行っても、日常生活上の支障が大きい場合には、人工関節全置換術や脊椎の矯正・固定術などが行われることがあります。このように重症になることは稀です。

* 日本では大変稀な疾患(有病率0.0065%)ですが、患者会の「日本AS友の会」に連絡すれば、病気の詳細、体操療法、療養・日常生活の手引き、専門医などに関する様々な情報が得られます。

事務局 Fax0422-49-6817

ホームページ <http://www.5b.biglobe.ne.jp/~asweb/>



企画・制作
社団法人日本整形外科学会



制作協力
エーザイ株式会社

CODE MO1010AKA
2010年5月作成